

華宝会



令和6年
6月9日 日

14時開演
国立能楽堂
主宰：華宝会

野口能弘
観世喜正

観世流
鸚鵡小町

大蔵流
文相撲
山本東次郎

大蔵流 狂言 文相撲

大名 山本東次郎
 太郎冠者 山本凜太郎
 新参者 山本 則重

観世流 能 鵜鴫小町

シテ 観世 喜正
 ワキ 野口 能弘
 笛 松田 弘之
 小鼓 鵜澤洋太郎
 大鼓 柿原 弘和
 太鼓 小寺真佐人
 後見 観世 喜之
 遠藤 和久
 永島 充
 遠藤 喜久
 奥川 恒治
 馬野 正基
 鈴木 啓吾
 佐久間二郎
 小島 英明

地謡

【あらすじ】

狂言 文相撲

召使いがたった一人だけの大名は、新しい使用人を雇おうと太郎冠者に探しに行かせます。ちょうどご奉公先を探している男と出会い、大喜びで連れて帰る太郎冠者。男はどんな仕事もこなせるとの触れ込みです。相撲も取れると聞き、大名は見たくてたまらなくなりですが、相手がいないので、自ら相撲を取ろうと立ち上がります。召使いが大勢いるように見せかけたり、新参の男の忠誠心を試そうとする見栄っ張りな大名、どうしても負けられない勝負に是非でも勝つため、秘策を練ります。

能 鵜鴫小町

和歌を愛する帝・陽成院は優れた歌を選んで集めようと思いますが、思うように集まりません。ふとかつて大歌人として名を馳せた小野小町を思い出し、新大納言行家に歌を託して小町へ使いを出します。しかし百歳となった小町は、近江国関寺で物乞いの狂女となって侘しい暮らしをしていました。もはや目が見えない小町の代わりに行家が帝の歌を読んで聞かせると、小町は昔の栄華を思い出し、古法の鵜鴫返しを技法を使って返歌を詠みます。そして在し日の在原業平の美しい姿を思い出し舞を舞いました。やがて沈む夕陽の中帰路に発つ行家を見送ると、小町は一人庵へと戻っていくのです。

チケット購入・お問合せ

【華宝会事務局】

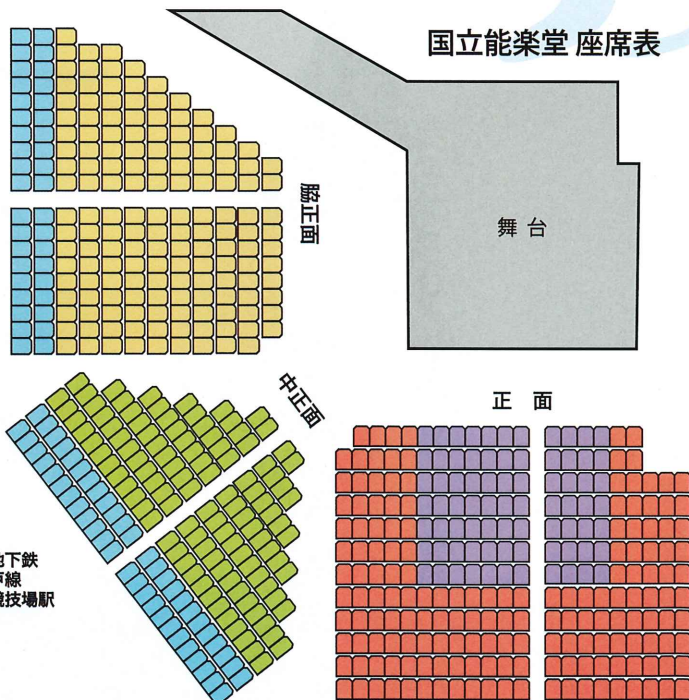
<https://kahoukai.blogspot.jp>

TEL/FAX 042(430)5206

MAIL kahoukai0115g@gmail.com



国立能楽堂 座席表



S席	9,000円	C席	5,000円
A席	7,000円	D(学生)席	4,000円
B席	6,000円		

上演中、許可の無い写真撮影、録音、録画は禁止させていただきます。

国立能楽堂 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1 03-3423-1331



5分 支場駅」下車 徒歩5分
 15分 都営大江戸線 国立競技場駅 下車 徒歩7分
 お車でのご来場はご遠慮ください。

チケットをお申込みの方は以下の項目をご記入の上送信ください、

お名前 _____

ご希望の席 _____ 席 _____ 枚 _____

ご住所 〒 _____

ご連絡先 TEL _____ FAX _____ e-Mail _____